

令和5年度 第1回八王子市多文化共生推進評議会 議事要点録

開催場所	生涯学習センター（クリエイトホール）11階 第7学習室
開催日時	令和5年（2023年）7月7日（金） 午後6時30分～8時00分
出席者	森茂座長、荒木評議員、遠藤評議員、奥野評議員、柴山評議員、ドミー評議員、花輪評議員、松本評議員
配布資料	評議会次第 資料1 八王子市多文化共生推進評議会 評議員名簿 資料2 第2期八王子市多文化共生推進プランに基づく取り組み状況 資料3 地域日本語教育推進事業について（概要） 資料4 多文化キッズサロン設置支援事業補助金（概要） 資料5 多文化キッズコーディネーター事業（概要）

1. 第2期八王子市多文化共生推進プランに基づく取組状況について

・資料2について。令和5年度の事業の継続や見直しについてそれぞれ数えてもらった方がいいのではないか。またそれぞれの事業について担当部署も入れるようにしてほしい。

【事務局の回答】

事業数だけでなく、継続・見直しの数や担当部署を入れることについて検討する。

・日本語能力試験（N1）に合格した留学生に対して市長から賞状や報酬を渡すとモチベーションを高められるのではないか。日本語学校の留学生に関してはN2に合格したら賞状を渡すことはできないか。

・賞状のように何かしら認められた経験はうれしいし、モチベーションアップの向上になるかもしれない。（松本）

【事務局の回答】

単にN1に合格するだけでなく、助っ人留学生として多文化共生を推進していくべく市政にも貢献してほしい。モチベーションを高める工夫については考えていきたい。

・外国人向け情報誌Gingkoについて。市内在住外国人の中でベトナム人が増えているが、人数比で考えるとスペイン語対応よりもベトナム語を増やす方がいいのではないか。

・八王子国際協会ではベトナム・ネパールの通訳者も探していきたいが、なかなか見つからないのが現状。人材発掘ができればと思う。

・ベトナム語について、ボランティアとしても協力していくことも可能。

【事務局の回答】

・テレビ電話通訳などベトナム語対応のサービスを導入している。

・ベトナム語やネパール語の需要は高くなっていることは認識しており、今後検討していく。

・「国際感覚の豊かな」とは？具体的なイメージが湧かないがどういうものか。

【事務局の回答】

海外青少年派遣や国際理解教育を通じて日本の国際社会における立ち位置を理解し、相手国の文化を理解する。ホームステイの派遣事業を通じて隣国の文化を知ること。また若い世代を中心にその文化を受け入れることで共生していくのが望ましい。

・災害時の外国人対応について、市民センターとは連携できているのか。市民センターの職員は災害時の対応を把握しているか。外国人市民自身も避難所の対応を知っておくことも必要ではないか。プランにも防災・災害対応の記載があるため、仕組みの検証・周知を行ってほしい。

【事務局の回答】

外国人は日本人と防災に対する感覚が違うこともあるので、災害時の対応についてしっかり周知しなければならない。外国人市民は2019年の台風第19号で避難所に避難する際に戸惑っていたという話もある。英語・中国語でも作成している総合防災ガイドブックや防災訓練等を通じて、防災対策・災害対応について周知・啓発していく。

・災害時の外国人避難者の受け入れについて、市民センターは知っているのか。避難所でも多言語の対応をしなければならない。

【事務局の回答】

災害時における日本語に不慣れな外国人への対応について、やさしい日本語での対応に加え、全ての避難所に配備しているコミュニケーションボードを活用することとしている。それで対応が困難な場合は、語学ボランティアの派遣やテレビ電話通訳の活用などを想定している。災害時には避難所となる市民センターとは、外国人対応も含め、連携を強めていく。

2. 国・東京都の新規補助金事業について

資料3～5について事務局より説明

・補助金事業とプランの関係について。補助金事業が採択された場合、市の事業としてプランに反映されるのか。また現在プランの中に補助金をもらっている事業はあるか。

【事務局の回答】

プランでは主な取り組みについて書いている。新たな補助金事業が採択された場合、プランをすぐ改定するわけではなく次回のプラン更新時に記載する。在住外国人サポートデスクは出入国管理庁からの補助金事業である。

・時代の変化が速い中で、プランの次回改定年は8年後だと遅すぎるのではないか。

【事務局の回答】

プランは上位計画の八王子未来デザイン 2040 に合わせた目安である。社会情勢の変化により、必要に応じて見直しを行うこととしている。

・外国籍の子どもは学習面の遅延が大きな課題。場所があっても来ない人が多かったり、学校に欠席や遅刻する人が多い。保護者との連絡も課題があり、学習遅延は親の常識の影響を受けているため親へのサポートも必要である。

・肌の色や人種差別を無意識でもやってもいけないということを教育していくべき。道徳を誰が教えるかの問題がある。教育現場で研修会や研究会を実施して、先生たちの多文化共生の意識を高めてほしい。

【事務局の回答】

日本人が外国人に対して特殊な偏見を持たないための啓発をしており、引き続き行っていく。

3. 海外友好交流都市との交流事業について

- ・ 海外都市との交流については、今年度八王子市の海外友好交流都市 4 都市すべてと対面による交流が再開した。
- ・ ドイツ・ヴリーツェン市との交流については、市民団体による現地での桜の植樹式が開催され、市長を始めとした八王子訪問団が 6 月に桜の植樹式参加のためドイツを訪れた。また、市民団体を中心にツアーも開催され、充実した交流ができた。
- ・ 台湾・高雄市との交流では、八王子まつりの際に政府の訪問団、パフォーマンス団にお越しいただいている。また、高雄市のランタンフェスティバルに本市のパフォーマンス団の派遣を行っている。コロナウィルスの影響で相互の派遣はストップしていたが、今年度はどちらも再開する。
- ・ 韓国・始興市は今年 5 月に職員が来王し、交流再開について話し合いを行った。
- ・ 中国・泰安市についても今年 8 月に来王し、市長を訪問する予定である。
- ・ 行政関係者の視察などで対応することもあるが、あくまでも市民間の交流を促すことが第一にある。